

ライフケアガーデン湘南 2階

症 例 概 要 利用 者 ： 80代 女性 要介護2

利用期間 ： 令和 5年 6月 ～ 令和 6年 12月現在

主 疾 患 ： アルツハイマー型認知症・絞扼性イレウス術後・慢性心不全

経 過 ： 短期大学を卒業後、定年まで小学高の教員として勤める。

夫が他界してから単身生活をしていたが、ご自宅が散乱し地域住民ともめる事が増えた為、娘宅のある県に転居。アルツハイマー型認知症と診断され、症状も進んだことから娘との同居が困難となり、令和5年6月に当ホームに入居となる。入居後は穏やかに過ごされていたが、令和6年4月に下血で入院、検査結果で明らかな出血原はなく1週間で退院。退院後は著しくADLが低下し看取りのICまで至るが、医師・看護師・介護士・栄養士と協力して、ご本人の尊厳を大切にして生活面での配慮をしながら、苦痛のないよう援助した結果、QOLの向上がみられた症例

内 容

令和6年4月に消化管出血で病院へ1週間入院。退院後からADLが低下し歩行困難となる。また、嚥下不良があり食事量が著しく低下してしまう。車椅子介助と食事は見守りで無理のない範囲で食べてもらっていたが、徐々に飲水も出来ない状態となり発熱症状が出現し痰の量も増え吸引実施。食事と水分摂取困難にて禁食、内服薬も全面的に中止となり点滴が開始された。BNP値が高く心臓に負担がかかっており全身の機能が低下している状態になり、5月下旬に看取りのICに至った。

ご家族は延命は望まず、苦痛なく施設でお看取り対応を希望。しかし状態は理解しているが諦めきれないご家族の思いやご本人の基本的欲求を抑えずに、静かに見守りだけの看取りではなく、負担のない範囲での援助を行う事にした。

夜間、頻回に尿意を訴え、多い時は15分毎に体動を繰り返してベッドからの転落リスクが強かった。低床ベッドに切り替えて事故防止に努めると共に、トイレに行きたいと強く希望されていた為、フットセンサーや体動センサーで素早く訪室してオムツ対応は最小限に留めてトイレ誘導する事でご本人が納得できる様に援助した。

医師と相談し頻尿改善薬や眠剤の内服を開始、徐々に尿意の間隔が延び夜間の入眠がはかれて、1日の生活リズムを整える事が出来た。食事が摂取出来ずにむせて誤嚥の可能性があるため、食事を中止して点滴を開始していたが生活リズムが整った事で、ゼリー食から経口摂取を試みた。栄養士は食事の内容を繰り返し検討・提供して、ご家族もご本人の好物を差し入れる等一緒に働きかけられるようにした。

食事量が進み点滴の離脱が図れ、33kgに落ちた体重も入院前の42kgまで戻ることが出来た。食事量が戻り体力的にも安定して笑顔や会話が増え、レクリエーションの参加を負担のない程度から徐々に増やしていった。

敬老会にも参加して米寿を皆でお祝いする事も出来た。看取りのICまで至ったが、単に苦痛を最小限にして見守る援助ではなく、小さな積み重ねを各部門やご家族と協力しながらQOLの向上に繋がれることが出来た。

今後も看取り期にとらわれずに、個別性に合わせた介護を実践していきたい。